

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	5
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	6

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### 「#桜のある水辺風景写真 2024」募集します！

JRRN では、毎年、日本国内の「桜のある水辺風景」の写真募集しております。これを機会に皆さんがもっと水辺の美しさに触れて、さらに水辺と人々との関わりについて考えるきっかけになれば嬉しいです。

[Instagram](#) で手軽に投稿できます

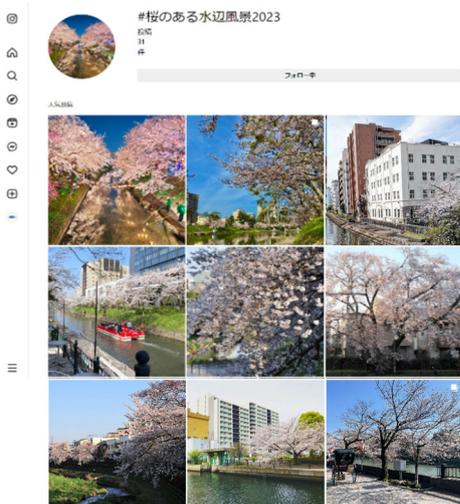
3月1日から応募を開始します。

JRRN のInstagramをフォローして、ハッシュタグ「#桜のある水辺風景 2024」をつけて投稿してください。

過去に撮影された写真も受け付けます。思い出の写真や、うまく撮れた写真に撮影時期やコメントをつけて投稿してください。応募方法の詳細は右記のチラシをご確認ください（変更の可能性あり）。

昨年度に引き続き、事務局内選考の結果、最優秀賞に選ばれた方には、ささやかながらプレゼントをご用意しております。

この機会を通じて、あなたの写真で多くの人々にインスピレーションを与え、美しい水辺風景を共有しましょう！



(JRRN Instagram)



● 応募期間：2024年3月1日（金）～ 2024年5月10日（金）

● 投稿写真はご本人が撮影した「桜のある水辺風景」のデジタル写真のみ  
※個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください

● 応募方法  
① Instagramを公開設定  
② 「jrrn01」をフォロー  
③ 「#桜のある水辺風景2024」をつけて投稿

応募作品はJRRNの刊行物やWEBサイト等に使用させて頂くことがあります。  
問合せ：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)  
事務局 担当：阿部・後藤 (Eメール: info@a-rr.net)

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 応募先・問合せ先：info@a-rr.net



※JRRN Instagram

<https://www.instagram.com/jrrn01/>

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクト—第 18、19、21 回「小さな自然再生」現地研修会開催報告書を公開

2023 年度（令和 5 年度）は、昨年 9 月～11 月にかけて計 5 回の「小さな自然再生」現地研修会を開催致しました。

まずは前半に開催しました第 18 回～21 回の計 3 回分開催報告書が完成しましたので、皆様にご案内させていただきます。

この開催報告書は、現地研修会の参加者とともに学び、楽しんだ内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

各現地研修会は、地元で頑張る方々や「小さな自然再生」研究会との協働・協力により開催することができました。関係された皆様に厚く御礼申し上げます。

この度公開した現地研修会

回	上段：開催地/下段：共催団体名
18	岡山県和気町・日笠川 わけっこパーク、「小さな自然再生」研究会
19	滋賀県長浜市・米川 米川よろず会議、「小さな自然再生」研究会
21	兵庫県豊岡市・出石川 但東 野あそびくらぶ いつなっと、コミュニティたかはし たかねっと、「小さな自然再生」研究会



※『第 18 回小さな自然再生現地研修会 in 岡山県和気町・日笠川』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/347>



※『第 19 回小さな自然再生現地研修会 in 滋賀県長浜市・米川』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/353>



※『第 21 回小さな自然再生現地研修会 in 兵庫県豊岡市・出石川』開催報告書のダウンロードはこちらから  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/358>

なお、後半の「第 20 回現地研修会 in 新潟・只見川」及び「第 22 回現地研修会 in 滋賀・愛知川排水路」の開催報告書につきましても、今年度中に公開し、改めて皆様にご案内させていただきます。

(JRRN 事務局・和田彰)

2月



## あの日のあの川 リレー日記 ～第72話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第72話主人公 岸本季紗

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：東京都隅田川)

### 「目新しい、絵の中の風景」

いつのこと？：小学生

どこの川？：秋川(東京都)

三浦さんからバトンを受け取りました。白川研究室の岸本と申します。今回は出身地を流れる隅田川ではなく、小学生の頃に家族と秋川渓谷に訪れた時のことをお話させていただきます。

私にバトンを渡してくれた三浦君と被ってしまったのですが、この後お話しするエピソードの場所を覚えておらず、親に聞いてみたところ秋川でのエピソードで、被っていたという経緯なので偶然ということで許していただければと思います。秋川については第71話にて三浦さんが紹介してくださっているので割愛させていただきます。

私の実家の近くには隅田川が流れているのですが、水域と陸域はコンクリートで分断されており、川のすぐ真上には首都高速が通っているようなところでしたので、河原で遊んだようなこともありませんでした。

そんな私にとって、秋川渓谷はとても面白い場所でした。様々な大きさの石にあふれている河原は小学生の私にとっては歩きにくひやひやしていたのを覚えています。そして、川の両岸に広がる緑の風景は私の記憶に目新しく、写真や絵でしか見たことのない風景が目の前に広がっていると圧倒されたことも覚えています。とにかく都会のビルで囲まれた場所に住んでいた私にとっては秋川渓谷でのすべてが新しく、印象に残るものでした。

秋川渓谷にはマス釣りのために訪れたのですが、あまり釣れなかったのか、マス釣りを楽しんだ記憶があまり残っていません。ただ一つ覚えているのは、ようやく魚がかかった釣り竿を河原にあげたのは良かったのですが、釣り針を誰も外すことが出来ず、その時別の場所に行っていた父親を待っていたということです。その時の私にとっては生きている魚をつかんで釣り針を外すことがとても怖かったのだと思います。

そして今も、釣り針を外すことが出来るかと言われると出来ないと思っています。そんな私ですがこの『川と人』ゼミに入って川との接点を持っていることもありますし、久しぶりに秋川、秋川渓谷を訪れてみたいと思っています。身長もだいぶ伸びた今、その場の印象は少し異なるものになっているのかもしれないと思いますし、家族とはまた異なる関係の友達と訪れることでまた異なる思い出を作ることが出来るのではないかとと思っています。

(次は安仁屋稜さんにバトンを託します)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2024年1月末まで提供分) Information from member

**【JRRN 会員からの提供情報】**

❖ 冬期企画展 (巡回企画展) 「キョクホクの大河」 (～2/25 迄開催)

埼玉県立川の博物館で開催されている冬期企画展 (巡回企画展) 「キョクホクの大河」のご案内です。

埼玉県立川の博物館では、これまでに河川にまつわる自然と文化をテーマとした企画展示をおこなって参りました。

本展示では国内を出て、シベリア大陸の大河、オビ川の自然や民俗をテーマとしました。大学の若手研究者の研究成果を基にし、企画・制作した巡回展示です。

- 日時：2024年1月13日 (土) ～2月25日 (日)
- 場所：埼玉県立川の博物館 (埼玉県寄居町)
- 主催：埼玉県立川の博物館
- 企画制作：渡辺友美 (東海大学)、大石侑香 (神戸大学)
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4288.html>



**【JRRN 会員からの提供情報】**

❖ 第 212 回 河川文化を語る会～地域に根ざした川の研究所 30 年のあゆみ (3/17 開催)

第 212 回の「河川文化を語る会」は愛知県にて愛知・川の会と共催で開催いたします。「豊田市矢作川研究所」は豊田市・矢作川漁協・枝下用土地改良区の 3 者によって第 3 セクター方式で 1994 年 7 月に設立され、今年で 30 年を迎えます。これまで、河川環境の調査研究、生物学・工学・社会学の研究者と、地域住民とで共同研究を行ってきました。

本講演会では、これまで 30 年にわたって行ってきた活動と同研究所のあゆみと共にこれからの展望等についてお話いただけます。

- 日時：2024年3月17日 (日) 14:00～16:00
- 場所：ウイंकあいち (愛知県名古屋市区)
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4292.html>

**【JRRN 会員からの提供情報】**

❖ 新刊「水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す」 発行記念トーク会 (3/10 開催)

「水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す」の発行記念トーク会が 3/10 (日) 14:00～15:30 に紀伊國屋書店札幌本店にて開催されます。

著者の中川さん、そして川づくりや自然再生のプロフェッショナルである岩瀬さん、中村太士先生の豪華 3 名による語り合い、是非皆さまご参加ください!

- 日時：2024年3月10日 (日) 14:00～15:30
- 場所：紀伊國屋書店札幌本店 1F インナーガーデン (北海道札幌市)
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<https://www.facebook.com/JapanRRN/posts/pfbid0WkPf3jisGPQL3DU6j27D3TvtLNR9nQW9piPu8jEbg9UDwtU5CuscLDQf4AKviRTU>

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁で紹介したイベントは除く

■ 応用生態工学会 特別公開シンポジウム～応用生態工学のこれまでとこれから (廣瀬シンポジウム)～

○日時：2024年2月23日(金) 15:00～17:15

○主催：応用生態工学会

○場所：ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 (東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3527.html>

■ 令和5年度 川と人をつなぐ活動成果発表会のご案内

○日時：2024年03月2日(土) 13:00～17:00

○主催：公益財団法人河川財団

○場所：TKP ガーデンシティ 御茶ノ水 3階 (東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3531.html>

■ 令和5年度びわ湖セミナー 森・川・琵琶湖のつながりを考える

○日時：2024年03月12日(火) 13:00～16:20

○主催：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

○場所：ピアザ淡海 2階 207会議室 (滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3533.html>

■ 第39回環境問題研究助成ワークショップ「自然資本管理のすすめ方」

○日時：2024年03月15日(金) 13:00～17:00

○主催：公益財団法人日本生命財団

○場所：京都先端科学大学太秦キャンパス・W204

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3523.html>

書籍紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す



地域住民が発案・協働し、手づくりの技で、身近な生物の生きる環境を回復する「小さな自然再生」が全国で進んでいる。北海道で地域住民の発意により行なわれている小さな自然再生、とくに「手づくり魚道」の取り組みを紹介しながら、地域の人々にとって身近な自然やそれと結びついた風景はどんな存在なのか、地域の力でそれを取り戻すことの意味は何かを問う。

<目次>

序章 変貌した故郷の風景——失われた空間の履歴

第1章 小さな自然再生との出会い——三郎川手づくり魚道ものがたり

第2章 広がる小さな自然再生

第3章 なぜいま小さな自然再生なのか

終章 小さな自然再生がひらく未来

終わりにかけて——海に生きる人に、風を

● 著者 中川大介 著

● 定価 2,200円 (税込)

● ISBNコード 9784540222023

● 発行日 2023年12月

● 出版 農山漁村文化協会(農文協)

● 判型/頁数 四六 280ページ

● 詳細はこちらから：

<https://toretate.nbkbooks.com/9784540222023/>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>